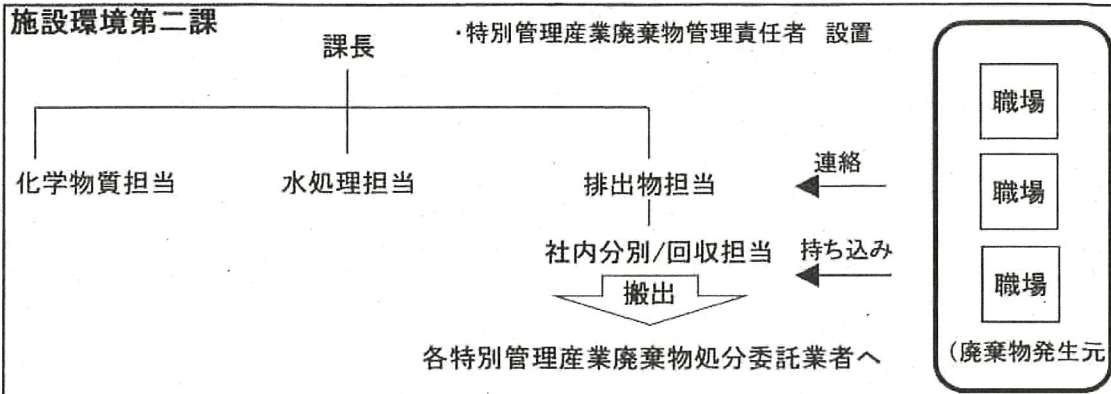


特別管理産業廃棄物処理計画書	
令和 5年 6月 14日	
大分市長 足立 信也 殿	
提出者 〒873-8501 住 所 大分県大分市杵築市熊野1-111 大分キヤノンマテリアル株式会社 氏 名 代表取締役社長 藤原 雅次 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0978-64-2111(代表)	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	大分キヤノンマテリアル株式会社 大分事業所
事業場の所在地	大分県大分市丹生993-1
計画期間	令和5年4月1日 ~ 令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	業務用機械器具製造業
②事業の規模	-
③従業員数	1251人
④特別管理産業廃棄物の一連の処理工程	引火性廃油: 中間処理業者に燃料化委託→燃料、その他用途として利用 強アルカリ: 中間処理業者にて中和後、混合処理→燃料用として利用 強酸 : 中間処理業者にて中和後、混合処理→燃料用として利用



特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】					
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強アルカリ	強酸		
	排出量	226.9t	0.9t	0.05t	t	t
	(これまでに実施した取組) ・新入社員受入れ教育、環境保証スタッフ研修などの教育・研修により、廃棄物の削減、分別に対しての意識向上 ・目標達成、排出抑制、分別及び再生利用への活動組織「排出物削減分科会」の設置 ・社内処理					
②計画	【目標】					
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強アルカリ	強酸		
	排出量	264.0t	0.9t	0.1t	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・「排出物削減分科会」の継続的運営 ・廃液の有価物化の検討 ・廃液社内処理検討 ・薬液使用量の見直しによる廃液削減					

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・種類毎の個別保管
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・現状と同様で新規に種類追加等が発生する場合は個別表示を行い置場を区画する

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項					
①現状	【前年度（令和 年度）実績】				
	特別管理産業廃棄物の種類				
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t
	(これまでに実施した取組)				
②計画	【目標】				
	特別管理産業廃棄物の種類				
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t
	(今後実施する予定の取組)				

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項					
①現状	【前年度（令和 年度）実績】				
	特別管理産業廃棄物の種類				
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)					
②計画	【目標】				
	特別管理産業廃棄物の種類				
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t
(今後実施する予定の取組)					

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項						
①現状	【前年度（令和 年度）実績】					
	特別管理産業廃棄物の種類					
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t	t
	(これまでに実施した取組)					
②計画	【目標】					
	特別管理産業廃棄物の種類					
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t	t
	(今後実施する予定の取組)					
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項						
①現状	【前年度（令和4年度）実績】					
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強アルカリ	強酸		
	全処理委託量	226.9t	0.9t	0.05t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	226.9t	0.9t	0.05t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	226.9t	0.9t	0.05t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t
	(これまでに実施した取組)					
<ul style="list-style-type: none"> ・全ての産業廃棄物は再資源化し、埋め立て処分は行わないことを目標とする活動 ・社内基準に準じ処理業者を選定し、廃棄物の処理を委託 ・引火性廃油の有価物化 ・強酸、強アルカリ廃液の社内処理化 						

②計画	【目標】					
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強アルカリ	強酸		
	全処理委託量	264.0t	0.9t	0.1t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	264.0t	0.9t	0.1t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	264.0t	0.9t	0.1t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての産業廃棄物を再資源化、併せて埋め立て処分を行わない管理の維持 ・法に則り処理業者を選定及び現場巡視を行い廃棄物の適正処理を確認し、委託 ・産業廃棄物として排出している物を随時有価物化への検討 ・全般的な産業廃棄物の削減 						
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度(令和4年度)実績】					
	特別管理産業廃棄物 排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)			227.8t		
	(今後実施する予定の取組等)					
電子マニフェスト加入済み						
※事務処理欄						

(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった特別管理産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハマまでに掲げるものをいう。)を除く。)を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

